

<目指せ！うるち玄米1等米比率90%以上！！>

今年の苗立ち本数は平年より少なく、また茎数も平年より少なめとなっています。ただし、葉令の進みも遅いことから、「十分に生育量は確保できている」と考えられます。6月上中旬には**目標茎数(1mに100本程)**を確保できると考えられますので、**遅れずに『中干し』を開始し、『溝掘り』をしていないほ場では早急に行いましょう。**

1 中干し

○中干し・・・6月上旬～中旬に開始する！

- ・過剰分げつを抑え茎の充実を図るため、1m間の茎数が100本程になったら遅れずに開始しましょう。
- ※『溝掘り』を実施していないほ場は、すぐに溝を掘りましょう。水の出し入れがスムーズになり、中干しの効果を高めます。
- ・中干しは、土の表面に小さなひび割れができるまで行いましょう。

「中干し」
の
程
度

普通乾田 → 長靴が沈まない程度(3～5日間)の田干し
水はけ悪い田や粘土質田 → 強め(5～7日間)の田干し



中干し頃の直播ほ場の様子

- ・ただし、極端に強い中干しは、稲にダメージを与え穂数の減少につながりますので数回に分けて適度に田干しを行いましょう。

○中干し後は、幼穂形成期まで湛水と落水を繰り返す「**間断かん水**」を行いましょう。

2 病虫害防除

○いもち病の発生を予防するため、6月中旬頃までに**薬剤を散布**しましょう。

薬剤名	10a 当たり使用量	使用上の注意
オリゼメート1キロ粒剤	1kg	散布後4～5日程度は「湛水状態」を保ち、7日間は落水やかけ流しをしない。

○カメムシ類の餌となるイネ科雑草が穂をつけないよう、畦畔等の草刈りや除草剤散布を行い、**カメムシ類**が発生・増殖しにくい環境づくりに取り組みましょう！



「直播水稻」で登録のある除草剤を使い使用回数や散布量等使用基準を遵守しましょう。

3 雑草防除

○雑草が残った場合は下表を参考にして、雑草の種類に応じて除草剤を施用しましょう。

雑草の種類	使用除草剤	10a 当たり使用量	使用時期	本剤使用回数	使用上の注意
広場雑草のみ	バサグラン粒剤	3kg	イネ3葉期～入水50日後まで(収穫45日前まで)	1回	落水又は雑草が露出する程度の浅水状態で、晴天日を選んで散布。散布後3～4日間は入水・落水しない。
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg	播種後25日～ノビエ4葉期(但し収穫30日前まで)	2回以内	散布時には5cm程度の深水で行い、散布後5日間は湛水状態を保つ。
	クリンチャーEW	100ml(希釈水量:25～100L)	播種後10日～ノビエ5葉期(但し収穫30日前まで)	2回以内	ノビエの茎葉部に確実に薬剤が付着するように散布する。 展着剤を加用する。
ノビエと広葉雑草	ウィードコア1キロ粒剤	1kg	イネ3葉期～ノビエ4葉期(但し、収穫60日前まで)	2回以内	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。
	クリンチャーバスメ液剤	1,000ml(希釈水量:70～100L)	播種後10日～ノビエ5葉期(但し収穫50日前まで)	2回以内	晴天日を選び、落水状態で雑草茎葉部に薬剤が付着するように散布する。また、3～4日間は入水、落水しない。 展着剤は加用しない。
	トドメバスMF液剤	1,000ml(希釈水量:100L)	播種後10日～ノビエ6葉期(但し、収穫50日前まで)	2回以内	落水状態で、晴天が2日以上持続する時を選んで散布する。散布後3～4日間は入水・落水しない。 展着剤は加用しない。

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！